

ドイツとイスラエル

—ねじれた関係のゆくえ

講演者 武井 彩佳 先生

学習院大学国際文化交流学部
国際コミュニケーション学科教授



・講演者プロフィール・

早稲田大学第一文学部史学科卒業。同大学より文学博士取得。

専門はドイツ現代史、ホロコースト研究、イスラエル・パレスチナ問題。

著書に『ホロコースト後の機能不全：ドイツ、イスラエル、犠牲と加害の関係』角川新書、

『〈和解〉のリアルポリティックス：ドイツ人とユダヤ人』みすず書房、『歴史修正主義：ヒトラー賛美、ホロコースト否定論から法規制まで』中公新書など、訳書にダン・ストーン著

『ホロコースト・スタディーズ：最新研究への手引き』白水社などがある。

<講演概要>

ホロコーストという歴史によって結びつけられたドイツとイスラエルの間には、犠牲と加害を超えて、政治・軍事・社会など多方面にわたる特殊な関係が形成された。そこでは互いが相手の国家アイデンティティを支えるような「ねじれ」があり、ガザ紛争以降、その問題性はますます可視化している。こうした関係が生まれた背景と、その現状について考える。

日時

2026年 10月19（月） 明治大学駿河台キャンパス
17：30 – 19：10 予定 リバティタワー11階1116教室

会場

【事前予約推奨】参加をご希望の方は右のQRコードよりご予約ください。

【事前予約期限：2026年10月16日（金）12:30 まで】

【お問い合わせ先】明治大学大学院事務室

☎:03-3296-4150(政治経済学研究科担当) ✉:seikeiken@mics.meiji.ac.jp

